Shall we continue our current approach to cultural policy?
Shall we rethink it as a question of our way of living?

公開フォーラム

TOWARDS THE CREATION OF NEW CULTURAL POLICY

新しい文化政策の構築をめざして

文化政策、このままでいいのか……
私たちの生き方そのものにかかわる問題として、
根底から考え直してみませんか？

2019年12月7日（土）14:00－17:45　13:30 開場

会場｜京都大学 芝蘭会館 山内ホール（〒606-8315 京都市左京区吉田近衛町）

定員｜50名　参加無料・事前申込み制（先着順）

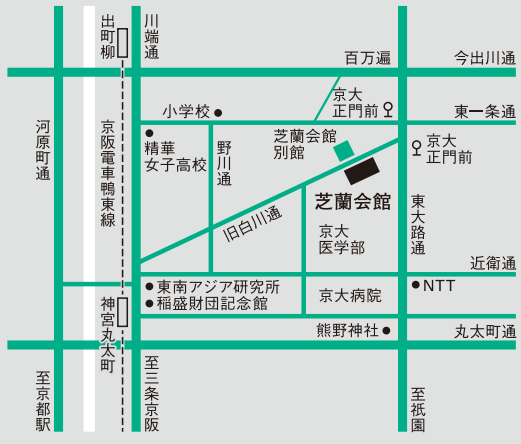
お申込み方法

お名前・ご所属（ご職業）・メールアドレス・連絡先電話番号を明記の上、
以下のメールアドレスまでお申し込みください。

cp_project@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

（新しい文化政策プロジェクト事務局）

交通アクセス：京阪出町柳駅から徒歩15分／市バス201・206系統他　京大正門前下車 徒歩2分／
京都駅（JR、近鉄）からは市バス206系統にご乗車下さい（約35分）
詳しくはこちら http://www.med.kyoto-u.ac.jp/shiran/kotsu/



主催｜新しい文化政策プロジェクト（研究代表：佐野真由子｜京都大学大学院教育学研究科教授）
協力｜京都大学 学際融合教育研究推進センター「分野横断プラットフォーム構築事業」

新しい文化政策プロジェクトについて

「文化政策」を、広く捉えたい。私たちの生き方そのものにかかわる、社会づくり、国づくりの問題として。

そして、学際的な人文知と、実践現場の知見を結集した、包括的な文化政策学を構想したい。とりわけそこでは、この国において長く顕著であった、西洋を範とする思考方式の克服をめざしたい。

そのためには、「文化政策」に該当する営みが、まだその語が存在しなかった時代を含めて、日本社会で歴史的にどのように行われてきたのか、現在どのようなことが行われ、実際に日本が得意としていることは何なのかを、あらためて客観的に、掘り起こす必要がある。これから行われるべきこと、この社会が本当に必要としていることを、そこから浮かび上がらせていきたい……。

……もちろん、一回の会議で結論が出るようなことではありません。今回の公開フォーラムは、私たちのこのような問題意識を形にしていく、長い道のりの第一歩にしたいと考えています。

PROJECT MEMBER

プロジェクトメンバー（発表順）

蔭山陽太 Kageyama Yota
THEATRE E9 KYOTO・支配人
（舞台芸術プロデュース、劇場運営）

山田奨治 Yamada Shoji
国際日本文化研究センター・教授
（情報学、文化交流史）

朝倉由希 Asakura Yuki
文化庁地域文化創生本部・研究官
（文化政策、アート・マネジメント）

ラプリー ジェルミー Rappleye, Jeremy
京都大学大学院教育学研究科・准教授
（比較教育学）

鈴木禎宏 Suzuki Sadahiro
お茶の水女子大学大学院・准教授
（比較文化論・美術史）

山本麻友美 Yamamoto Mayumi
京都芸術センター・チーフプログラムディレクター
（アート・マネジメント、現代美術）

奥中康人 Okunaka Yasuto
静岡文化芸術大学文化政策学部・教授
（音楽学、音楽史）

佐野真由子 Sano Mayuko
京都大学大学院教育学研究科・教授
（文化政策学、外交史・文化交流史）

PROGRAM

公開フォーラム プログラム

2019年12月7日

13:30 開場・受付開始

14:00 開会挨拶・趣旨説明（佐野真由子）

14:10 報告1 蔭山陽太
民間劇場にとっての公共性
―THEATRE E9 KYOTOの設立過程と運営の展望

14:25 報告2 山田奨治
著作権法改正をめぐる力学の変化について

14:40 報告3 朝倉由希
芸術文化事業の評価をめぐる課題
―データ主義と芸術のジレンマ

14:55 報告4 ラプリー ジェルミー
教育政策における西洋模倣時代の終焉?
―「欠如」モデルを超えて

15:10 報告5 鈴木禎宏
工芸の近現代

15:25 休憩

15:45 報告6 山本麻友美
公共性とアート―京都芸術センターを例に

16:00 報告7 奥中康人
日本音楽史のなかの西洋楽器
―直輸入型と折衷型のコンフリクト

16:15 報告8 佐野真由子
原点としての「開国」外交

16:30 全体討論

17:45 終了予定